■ Illustratorにおける属性－アウトプットの数値の挙動

データ入稿時にアウトライン化をしてもらうことがありますが、そのさい、文字がパスに変換されます。しかし、PostScriptは、内部的に、曲線を直線近似して出力しており、Illustratorの曲線においても同様に「属性パレットのアウトライン」の数字が関係しています。

Illustratorのデフォルト値は800になっておりますが、2400dpiのイメージセッターに出力するには充分な値とは言えません。

また、Illustrator以外のEPSファイルを無理矢理開こうとすると働くEPS解析により、開いた後のIllustratorの部品は全て300という値が設定されてしまいますが、これはプリンタに出力してみても直線近似の度合いが分かるほどです。

以下に、Illustratorの属性－アウトラインの数値と実際の出力物を示します。

10倍に拡大：
本来は10ポ

■アウトライン前

綺麗な曲線で出力されます。

■アウトライン化（800）

普通にアウトライン化した直後の状態です。

■EPS解析後（300）

IllustratorのEPS解析が働くと、属性－アウトプットの値が300になり、カクカクになります。

■Illustrator9.0のバグ（100）

Illustrator 9.0は、Illustrator 8形式で保存したり、特定の操作で属性－アウトプットの値が100になってしまいます。Illustrator 9.02にアップデートする等して対処しましょう。